



子ども読書支援センターニュース 第16号



2015.10.30

山梨県子ども読書支援センター

本誌は、県民の皆様に山梨県子ども読書支援センターのことをより深く知っていただくため、
当センターの事業や活動内容について情報発信するものです。



▲巨大シャボン玉に挑戦！

>>夏休み科学あそび教室を開催しました。

7月30日(木)・31日(金)、小学生の子ども達に科学と科学の本へ興味を持ってもらうことを目的に、午前の部と午後の部に分け、実施しました。2日間で359名の参加がありました。講師として高校の理科教諭に協力いただき、手順の説明や解説も行いました。

「しゃぼん玉で遊ぼう」では、3種類のしゃぼん液で、しゃぼん玉の大きさや、割れるまでの時間を比べました。また、巨大なしゃぼん玉作りも体験しました。

「ふしぎなメビウスの輪」では、テープ状に切った紙の端と端をつなげた輪と、ねじってから輪にしてつなげた紙の真ん中をぐると2等分に切るとどうなるか、確かめました。ねじる回数や3等分、4等分に切る紙も用意し、比べました。

「空気砲で遊ぼう」では、巨大空気砲の実演の後で、各自、空気砲を作成しました。ボールやロケットの絵を付けた紙コップを、空気砲にセットして飛ばしました。天井に届くほど上手に飛ばす子どももいました。

また、宿題の自由研究について、わからない点や困っていることを質問し、講師のアドバイスを受けている子どもも見られました。

会場内では自由研究や、科学あそびの関連図書を展示したり、ブックリストを配布しました。子ども達は本を手に取り、自由研究のヒントを求めて熱心に読んだり調べたりしていました。

参加者からは、「できあがった時がうれしかった。」「科学っておもしろいなと思った。」等の感想が寄せられ、大変好評をいただきました。



▲空気砲を作っているところ



▲自由研究、何にしようかな？

★科学あそびのプログラム内容★

7/30午前	しゃぼん玉で遊ぼう
	ブーメランを作ろう
7/30午後	ふしぎなメビウスの輪
	プラバンでキーホルダーを作ろう
7/31午前	よく飛ぶ紙飛行機を作ろう
	ぶんぶんごまを作ろう
7/31午後	空気砲で遊ぼう
	ぷかぷか浮かぶピンポン玉

＞＞第2回子どもの読書活動推進スキルアップ講座を開催しました。

7月17日（金）に「ビブリオバトルで読書を楽しくーゲームで広がる読書の輪ー」と題して、ビブリオバトル普及委員会会員の鈴木有斗氏を講師に招き、講座を実施しました。図書館司書や学校司書、子どもの読書に関心のある方などを中心に、29名の参加がありました。

ビブリオバトルは、本の紹介を通したコミュニケーションゲームで山梨県内の図書館や学校等でもここ数年、広く開催されています。

講座では初めに、ビブリオバトルの公式ルールについて説明を受けた後で、講師によるデモンストレーションがありました。実際の様子やビブリオバトルの楽しさを体感しました。

次に、参加者は4～5人のグループに分かれて、各自が持参した本を使ってビブリオバトルに挑戦しました。それぞれの発表のあと、グループ内で2分間のディスカッションを行い、「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票でチャンプ本を決め、盛り上がりました。

終わりに、「人を通して本を知る、本を通して人を知る」というビブリオバトルの特性や効果、また主催者や司会者として関わる際の開催のヒントなどをお話いただきました。

参加者からは、「初めて会う人と、実際にビブリオバトルを体験できて楽しかった。」「小学校の司書をしているが、ぜひ実践してみたい。」等の感想が寄せられ、好評をいただきました。講座で学んだ内容を活かし、子どもと共にビブリオバトルを実践することで、本を通したコミュニケーションの促進に役立てていただければと思います。

【ビブリオバトル公式ルール】

1. 発表参加者が読んでおもしろいと思った本を持って集まる。
2. 順番に1人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表のあとに参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分おこなう。
4. すべての発表が終了したあとに「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票に参加者全員1票でおこない、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

出典：『ビブリオバトルを楽しもう ゲームで広がる読書の輪』粕谷亮美／文 さ・え・ら書房 2014年

＞＞児童青少年サービス講座中級編(第1回)を実施しました。

7月28日（火）に、児童青少年サービス講座中級編（第1回）を開催しました。この講座は、子どもの読書活動推進にあたり、専門的助言や技術的な指導を行う人材を育成するための5回連続講座となっています。講座の開始に先立ち、開講式も併せて行いました。

第1回は「子どもの本の紹介文の書き方（子ども向け・大人向け）」と題して、日本図書館協会認定司書の伊藤明美氏にご講義いただきました。紹介文は書評とは違い、読みたい気持ちにさせることが大事とのことでした。また、その本を知らない人にもわかるように、正確な情報を図書館員としての視点で書くことが求められるとのことでした。受講者が提出した本の紹介文に対し、1冊1冊丁寧にポイント等を挙げながら解説していただきました。

後半はグループに分かれ、事前課題で紹介文を書いた本のキーワードを書き出しました。紹介文を書くときには、これらのキーワードを芯にして書くことよとのアドバイスがありました。また、何度も書き直すこと、冷静に客観的に楽しく書くことが大切で、子どもの本の紹介文ばかりを読まずに、大人の本の紹介文や書評欄を読むのもおすすめとのことでした。

受講者からは、「気を付けるべきポイントをわかりやすく教えていただき、今後の紹介文に活かせる」「子どもたちが読みたいと思えるような紹介文を書けるようにしていきたい」等の感想が寄せられ、今後の紹介文を書くにあたり、本講座が刺激となったようです。